

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：82606

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2022

課題番号：20K23246

研究課題名（和文）ポリファーマシーを解消するための介入方法の開発に向けた基礎調査

研究課題名（英文）Basic research to develop interventions to reduce polypharmacy

研究代表者

梶 有貴（Yuki, Kaji）

国立研究開発法人国立がん研究センター・がん対策研究所・特任研究員

研究者番号：40888476

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、高齢者のポリファーマシーを減らす際の阻害・促進要因を調査することを目的とした。阻害要因・促進要因の調査には、海外で実装科学の分野で多用されているフレームワークであるCFIR[Consolidated Framework for Implementation Research]の日本語訳を実施した。そのフレームワークを用い、特にがん分野における低価値な薬剤処方の一つとして低リスク患者への化学療法誘発性悪心・嘔吐（Chemotherapy Induced Nausea and Vomiting：CINV）に着目し、その阻害要因・促進要因を特定するための質的研究を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通して、ポリファーマシーを解消するといった、現場にすでに実装されている低価値な医療を減らす取り組み（脱実装）においても、通常の高価値な医療を現場に定着させる取り組み（実装）の阻害要因・促進要因を発見するために使用されているフレームワークを活用することで、その要因を特定することができることがわかった。今回の調査では、がん分野に関連する一部の組織のみの調査となっているが、今後は他の様々な臨床の分野において脱実装の阻害要因・促進要因を決める際にも同様のフレームワークで調査することが可能かどうかを調べていく必要がある。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to investigate the barriers and facilitators in reducing polypharmacy among the elderly. The Japanese translation of CFIR [Consolidated Framework for Implementation Research], a framework often used overseas in the field of implementation science, was used to investigate the inhibiting and facilitating factors. Using this framework, we focused on chemotherapy-induced nausea and vomiting (CINV) in low-risk patients as one of the low-value drug prescriptions, especially in the field of oncology, and conducted a qualitative study to identify its barriers and facilitators.

研究分野：普及と実装科学

キーワード：高齢者 ポリファーマシー 普及と実装科学

1. 研究開始当初の背景

超高齢社会を迎えている本邦ではポリファーマシーを解消することは重要課題と認識され、診療ガイドラインの提言や学会からの推奨が出されている。しかし、これらの提言を公表するだけでそのまま現場に浸透していくとは限らず、ポリファーマシーの解消を実装のための効果的な介入方法の開発が求められる。

2. 研究の目的

本研究では、エビデンスと現場のギャップを埋める学問領域である「普及と実装科学」に着目し、その理論的モデルを用いて本邦の医療現場でポリファーマシーを解消する際の障害・促進要因を調査し、介入方法の開発の基礎研究とすることを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 2020 年度：調査に用いるインタビューガイドの作成とパイロット調査の実施
インタビューガイドの作成：先行文献を基に質問する項目をインタビューガイドにまとめる。想定しているインタビューの内容は、処方までのプロセス、処方についての知識や能力、投薬における問題点、多職種との連携、などである。
パイロット調査：2、3人の臨床医または薬剤師を対象に半構造化面接のパイロット調査を実施する。また、本研究に参加する施設を募り、施設の選定に当たっては専門分野、都市部および地方のバランスを考慮し本調査の調査対象となる医療施設の選定を行う。

(2) 2021 年度以降：ポリファーマシーを減らす際の障害・促進要因についてのインタビュー調査の実施

本調査：調査参加者からは書面による同意を得た上で、ポリファーマシーの解消に取り組む医療機関あるいは薬局において、関係する医療従事者（医師、薬剤師）等に半構造化面接を実施する。インタビューは理論的飽和が達成された時点でデータ収集を打ち切る。本研究が当初計画通りに進まない場合は質問紙での調査を組み合わせる。

インタビュー内容の分析：録音されたインタビューの結果を外部機関に依頼し逐語的に書き起こし、独立した2名の研究者でコーディングを行う。結果の解析は、実装科学の理論である Theoretical Domain Framework(TDF)または Consolidated Framework for Implementation Research (CFIR)を使用し主題別に分析を行う。

研究結果の開示：解析した結果について学会発表、成果論文作成と投稿を通して公表を行う。

4. 研究成果

本研究の準備として、インタビューガイド作成およびコーディングに使用する「実装科学のための統合フレームワーク[Consolidated Framework for Implementation Research : CFIR]」の日本語版の作成を行った。また、実装研究の手法について整理するために、米国国立がん研究所 (National Cancer Institute) が発行している「Implementation Science at a Glance (邦訳：ひと目でわかる実装科学：がん対策実践家のためのガイド)」および「Qualitative Methods in Implementation Science (邦訳：実装科学における質的手法)」の日本語版の編集・翻訳協力を行った。これらを保健医療福祉における普及と実装科学研究会 (D&I 科学研究会) のホームページ上で公開した。

これらの資料をもとに本研究で扱うインタビューガイドの作成・準備を行った。また、本研究のプロトコルを作成し、2020年11月28日開催の「保健医療福祉における普及と実装科学研究会 第5回学術集会 (Web 開催)」にて口述発表を行った。

しかし、新型コロナウイルス感染症流行により医療現場がひっ迫している状況が続いており、2021年度以降に予定していたインタビュー対象である医療従事者の参加者の募集が困難な状況となった。そのため、既存の研究での調査に参入する形で調査を継続することを検討した。

ポリファーマシーの原因となる薬剤の一つとして、低リスク患者へのがん化学療法誘発性悪心・嘔吐に対する予防的制吐療法 (Chemotherapy-induced nausea and vomiting; CINV) があげられ、米国癌治療学会をはじめとする各種診療ガイドラインや Choosing Wisely の推奨の一つとして含まれているものの、プラクティスでは使用されていることの多い薬物療法として知られている。本研究のパイロット調査の一環として位置づけ、低リスク患者への CINV に対す

る予防的制吐剤を減らす際の阻害・促進要因についての上記フレームワークを用いた質的調査を開始し、プロトコル論文の投稿が終了し、現在収集したデータを解析中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 島津 太一、小田原 幸、梶 有貴、深井 航太、今村 晴彦、齋藤 順子、湯脇 恵一、立道 昌幸	4. 巻 34
2. 論文標題 産業保健における実装科学	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 産業医学レビュー	6. 最初と最後の頁 117 ~ 153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34354/ohpftrev.34.2_117	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yaguchi-Saito Akiko, Kaji Yuki, Matsuoka Ayumu, Okuyama Ayako, Fujimori Maiko, Saito Junko, Odawara Miyuki, Otsuki Aki, Uchitomi Yosuke, Zenda Sadamoto, Shimazu Taichi	4. 巻 12
2. 論文標題 Factors affecting the implementation of guideline-based prophylactic antiemetic therapy for chemotherapy-induced nausea and vomiting in Japan: a protocol for a hospital-based qualitative study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e055473 ~ e055473
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1136/bmjopen-2021-055473	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 梶有貴
2. 発表標題 実装科学の統合フレームワークを用いたポリファーマシー解消の阻害要因・促進要因の評価
3. 学会等名 D&I 科学研究会（保健医療福祉における普及と実装科学研究会）第 5 回学術集会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 （分担翻訳）梶有貴、（監修）中山健夫・内富庸介、（監訳）河野文子・島津太一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 保健医療福祉における普及と実装科学研究会（RADISH）	5. 総ページ数 40
3. 書名 実装科学における質的手法	

1. 著者名 (監修)内富庸介、(監訳)梶有貴・島津太一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 保健医療福祉における普及と実装科学研究会 (RADISH)	5. 総ページ数 64
3. 書名 ひと目でわかる実装科学：がん対策実践家のためのガイド	

1. 著者名 (分担執筆)梶有貴、(監修)内富庸介、(監訳)今村晴彦、島津太一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 保健医療福祉における普及と実装科学研究会 (RADISH)	5. 総ページ数 101
3. 書名 実装研究のための統合フレームワーク CFIR Consolidated Framework for Implementation Research	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------